発行月：平成22年6月　　家族新聞　　第105号

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 高橋賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
（渋川福祉センター内）
TEL0561-51-2878

日本文化の原点である百姓体験プログラム

どろんこ田植え体験

どろんこ遊びを兼ねて田んぼをグチャグチャ（代かき）にして田植えをします。

田んぼはお米をつくるだけじゃない生き物のすみか子どもの遊び場学びの場です。

畑に水が入るとカエルやシジミいろいろな生物が育ってきます。

子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）助成活動。

百姓それはなんでもできる暮らしの達人そこは生きた学びと遊びの宝庫。

百姓体験は「理屈ではなく実体験」を、大変さ難しさではなく楽しさおもしろさを大切にし、食と農と環境のつながりを感じられるプログラムを目指しています。

暑い中でもワイワイガヤガヤいいことです。

平成二十二年六月四日（金）名部高学の生徒と子供達が協力して一つのお米が育てます。「あいちのかおり」種です。

▲苗を植える前に代かきを全員で実施。

真剣そのもの。はじめての体験で得たものは、この思いは頭の中に一生残るでしょう。

▼稲苗えを植えはじめました

21世紀の田舎学に挑戦

生き生き米づくり奮闘中